

Close up
だて



壁一面を覆うほど大きな壁飾り
(新田さんの作品)

—「碧」を生み出す藍の魅力をもっと多くの方に知ってもらいたい—

だて藍染振興会

「藍」 染めの魅力は、作業の過程が同じでも、作品それぞれで異なる色合いが見られることですね」と話してくださいさるのは、だて藍染振興会の会長、新田千恵子さん。

古くは奈良時代から衣服などを染めるために使われたという藍。明治7年、藍の主産地四国からの移住者が伊達市で栽培を始めました。その後、温暖で藍の栽培に適した気候の伊達市は、国内でも数少ない生産地に発展。「伊達の藍染め」は、全国的に評価される地場産業に成長しました。

藍への認識を深めることが目的の市主催の講習会に参加したメンバーが中心になり、平成11年に黎明観の完成と同時に会が発足。会員になるには、毎年1月に開催されるだて観光協会主催の講習会を受講することが条件ですが、

ここ2年間では、その講習会を受講した8名もの人が入会。現在は、会員同士切磋琢磨で日々腕を上達させながら、サークルまつりへ出品する作品の製作や、全国各地から藍染め体験に訪れる修学旅行生の手伝いを行うなど、意欲的に活動しています。

「思い描いていた色に染まらないこともありますが、次はデザインを変えてみようなど、みんなで和気あいあいと作業を進めています」と新田さん。

お話をうかがっている間にも、1枚の布が藍液に何度も浸けられ、草色から美しい紺碧へと色の変化を見せていました。

最後に新田さんから一言。「より多くの人に藍染めの美しさを知ってもらいたいですね。藍染め経験のある方も、もう一度藍に触れてみませんか」

だて藍染振興会

会長 新田千恵子さん (☎23-1095)
活動 毎週火・木・土
午前11時～午後2時
活動場所 黎明観藍工房

※藍染講習会は毎年1月に開催します
講習会の詳細は伊達観光物産公社
川股さんまで (☎25-5567)

広報だて

発行・編集 伊達市企画財政部企画課
☎ 0142-23-3331 内線238・239
FAX 0142-23-4414
✉ kouhou@city.date.hokkaido.jp
〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

楽
画
記

■今月も「フェイスブック」…勤務先の同僚を中心に徐々に「友達」が増殖中!結果、勤務先ではまず会話できない「友達」ともインターネット上ならほぼ毎日の会話に成功(^_^)その影響で実際に会うとお互い妙な笑顔に…このツールなら怖〜い先輩にも申すことも掛け合いです!(じ)

■Twitter(ツイッター)に登録しました。(じ)さんが登録しているフェイスブックとは違い、文字制限があるツイッター。いざ文字を打つものの何を書こうと一緒にやり始めた友達とメールで連絡。メールの方が簡単…と思いつながらの始まりでしたが、現在は順調に続いています。(よ)

■「フェイスブック」に「ツイッター」。コミュニケーションの取り方が時代と共に変わっています。アナログな私はほとんど置いていかれ、いちいち説明を受けないと理解できなくなってきました。「文字を書く」という一般的表現が「文字を打つ」に変わるのも遠くないかもしれませんね。(や)

として保存しよう